令 和 ７ 年 度 事 業 報 告

令和７年４月１日～令和８年３月31日

Ⅰ　はじめに

シルバー人材センターを取り巻く環境は、少子高齢化に伴う労働力不足や定年延長が浸透する中、新規入会者数は伸び悩み、会員の高齢化が一層進む状況となっています。また、フリーランス法への対応として、令和８年度までに新たな契約方式（発注者とセンター、会員による三者間の包括契約）に移行するよう厚生労働省から示されていることから、各センターは新契約への移行や体制整備などに追われる一年となりました。

こうした中、当センターは第４次中期５ヶ年計画に掲げた６つの柱を軸に会員拡大や就業機会の開拓、安全・適正就業の確保など、各種事業を進めてまいりました。

特に、会員拡大については、派遣業務の拡大や会員のお友だち紹介、契約方法の見直しに合わせて進めてきたSmile to SmileやＬＩＮＥを効果的に活用したことにより、会員数は前年度から40人増え、年度当初目標とした550人を上回る570人となりました。

また、新契約への移行は、令和７年４月から公共、民間を含むすべての請負契約を新契約方式へと移行することができました。

他方、安全・適正就業においては、作業中の転倒やハチ刺されなど傷害事故が12件、草刈り作業等における賠償事故が９件発生したことから、あらためて事故防止に向けた安全対策の再構築が求められることとなりました。

なお、事業実績ですが、請負・委任の受託事業収入は、３億850万円余となり、前年度比1,476万円余の増（105.0％）、受託件数は、公共330件、民間1,237件、一般家庭2,131件の合計3,698件（39件増）で、就業延人員は55,963人（1,008人減）となりました。

また、派遣事業収入は3,186万円余となり、前年度に比べ872万円余の増（137.7％）、受注件数は39件（同数）、就業延人員は5,600人（1,298人増）となりました。

Ⅱ　事業実施結果

事業計画に基づき、以下の事業を実施しました。

１　会員の拡大と確保対策

毎月開催の入会説明会に加え、事務所を訪れる入会希望者にはその場で就業意向などを聞き取り、早期にマッチングできるよう効率的な入会に努めました。

また、センターの魅力アップと女性会員の拡大、退会抑制を目的に女性委員会を立ち上げ、先進事例の視察や女性向け講座の開催、会員活動アンケートなどを実施しました。会員の就業希望やセンター事業へ意向調査などを行うとともに、入会説明会では、委員自身の入会動機や仕事の内容などを話され、参加者の入会促進につなげました。

会員のお友だち紹介制度では、21人が新規入会されました。

また、センター入会を目的に実施した「刈払機取扱安全衛生講習」や「マキの木剪定講習」には19人が参加され、草刈りや剪定作業を希望する６人が入会されました。

さらに、市町と連携して開催したシニア面接会では、ライフプランセミナーと題してシニア世代の働き方について、シルバーの魅力発信にも努めました。

袋井市や森町の広報紙の活用や自治会への回覧、各種イベントやコミュニティセンター等で会員募集チラシや「いきがい」、「センターだより」を配布して幅広い広報に努めました。

２　就業機会の拡大と確保

就業機会開拓のため、袋井商工会議所や浅羽町商工会、森町商工会を通じてチラシの配布やシルバーの利用促進をお願いしました。また、新契約移行に合わせて企業や公共機関等を訪問し、既存業務の継続に加え新たな就業機会の確保にも努めました。

企業や事業所から届く求人情報は、ＬＩＮＥを積極的に活用して効率的な就業マッチングに努め、仮会員の入会に繋がりました。

新規就労業務として、雑紙回収や野菜の袋詰め・検品、盆供養

の花作り、レンタル建機の整備補助、イチゴ農園の作業など、新たに公共２件、事業所 31 件、家庭 188 件の受注先が増えました。

３　安全・適正就業の推進

安全・適正就業については、センター全体で取り組むべき課題として「安全就業スローガン」を募集し、107名の会員から211作品の応募があり、会員一人ひとりの意識向上につながりました。

【最優秀】「気をつけよう 慣れた作業に 落とし穴」竹原純子さん

【優秀賞】「就業の過信と慣れが 事故招く」安間清海さん

また、草刈り中の飛び石事故を防止するため、草刈り作業する会員を対象に５月と３月に「刈払機使用者研修会」を行い、座学と実技の両面から作業時における安全対策を再確認しました。併せて、飛び石防止ネットの整備や飛び石軽減刈刃の購入支援、作業マニュアルの見直しを行い、再発防止の徹底に努めました。

熱中症対策として、作業時間の短縮や休憩時間の調整、お客様への協力のお願い、併せて会員へ「熱中症対策キット」の購入支援を行い、作業中の安全と健康管理に努めました。

また、会員の健康管理と就業基準の側面から、月に80時間を超える就業現場においては、就業基準内で就業できるよう就業先との調整を図り、会員の就労負担軽減に努めました。

なお、事故発生状況については、除草作業中のハチ刺されや切傷、作業中の転倒や落下による骨折、裂傷といった傷害事故が12件、草刈り作業中における自動車の窓ガラスの破損や支柱ワイヤーの切断などの賠償事故が９件、熱中症見舞金請求が２件、合計23件の事故が発生しました。

４　労働者派遣事業の推進

適正な派遣事業を推進するため、就業先から指揮命令を受ける業務や社員と混在して行う業務については、事業所と協議し請負契約から派遣契約へ移行しました（４社）。

また、袋井市選挙管理委員会から受注した期日前投票立会人業務に会員 72 名が従事するとともに、就業先から派遣会員の増員

が要請されるなど、就業先の開拓や就労会員の増加を図り、事業所への請求金額は令和６年度に比べ約 38％（約 870 万円）の増となり、初めて 3,000 万円を超えました。

5　公益社団法人としての適正な事業運営

地域に根差した公益社団法人として「自主・自立・共同・共助」の基本理念のもと、地域社会へ貢献することを目的に取り組みました。

公益法人法改正に伴う対応について、法人内部の透明性向上とガバナンス強化のため、外部理事及び外部監事の設置が義務付けられたことから、次期役員改選に伴う理事・監事候補者選考委員会において外部理事、外部監事の導入に向けた協議を進めました。

また、静岡労働局及び静岡県による３年毎の点検調査が行われ、適正な事業運営がされている評価結果を受けました。

6　地域社会への貢献

高齢者の就業や社会参加活動を推進するため、シニア向けスマホ講座の開催や刈払機安全衛生講習、マキの木剪定講習など、高齢者の希望や能力を活かした就業が実現できるよう研修事業に取り組みました。

また、地域社会への貢献事業として地区ごとに奉仕作業を実施しました。袋井地区では街路のごみ拾いとシルバーワークプラザの樹木管理を実施。浅羽地区では街路のごみ拾いやポケットパークの樹木管理を、森町地区では公立森町病院の緑地管理などを行いました。

7　センターの運営体制の強化

センターはフリーランスに該当する会員が安心・安全に就業できる環境を整備するため、ハラスメント行為に係る対応が国から求められてきました。このため、会員や職員が健全で働きやすい職場環境を維持できるようセンター全体としてのハラスメント防止に関する基本方針の策定や対応方法などの規定整備に取り組みました。

また、会員活動アンケート調査を実施し、会員の就労状況や就業希望、センター事業などへの意見聴取を行い、就業開拓や事業運営に役立てる機会としました(回答数276人・回答率51.4%)。

さらに、会員サービスの向上とセンター事業への参加を促進し、会員継続につなげるため、センターが行う事業や運営の参加に対してポイントを付与して様々な特典と交換できる「ポイント制度」導入に取り組みました。

８　効率的な運営と健全財政の確立

会員の請負業務について、フリーランス法に対応した新契約方式に令和７年４月から順次移行したことで、インボイスによる財政負担の軽減に努めることができました。

新契約への移行を進めるうえでのデジタル化への対応として、Smile to SmileやＬＩＮＥの活用を推進しました（令和８年３月末現在会員登録率　Smile…71%　LINE…67%)。

また、昨年11月の最低賃金引き上げに合わせ、センターの配分金見積単価についても最低賃金以上となるよう、就業先等との調整を行い、会員の収入向上と自主財源の確保に努めました。

９　シルバーワークプラザの指定管理運営の充実

シルバーワークプラザは高齢者の就業促進と余暇活動の支援に加え、内職相談室や職業相談室を併設し、多くの市民が利用されることから、施設管理者として施設出入口付近の安全確保のため、車両停止線の表示や交通安全のぼりを掲げ、利用者への注意喚起を促しました。

また、シニア向けスマホ講座や刈払機講習会等の実施、ちょこっと野菜市には近隣住民をはじめ様々の方が利用されるなど、公益施設として幅広く利用されました。

以下、令和７年度事業の実施状況を報告致します。